

教員業績一覧（2014年度）

五十嵐泰正

【共編著】

- 1 五十嵐泰正・開沼博編『常磐線中心主義（ジョーバンセントリズム）』河出書房新社，2015年3月予定。
（「序章 寡黙で優秀な東京の「下半身」」「第一章 上野駅——「北の玄関口」のこれから」「第二章 柏駅——とあるベッドタウンが経験した協働」を執筆担当）

【書評】

- 1 中西準子著『原発事故と放射線のリスク学』，中国新聞（2014年4月13日），南日本新聞（同），京都新聞（2014年4月20日），河北新報（2014年4月20日）など。
- 2 岸政彦著『同化と他者化——戦後沖縄の本土就職者たち』『都市社会学会年報』32号，2014年9月，194～197ページ。

【座談会】

- 1 （山田久，木下武男，今野晴貴との座談会）「労働市場の構造から分析する「人手不足」局面」NPO法人POSSE『POSSE』24号，2014年9月，84～100ページ。

【学会報告，講演など】

- 1 「アンケート調査から見てきた直売所かしわでの現状」『かしわで安全・安心プラン推進委員会』，JAちば東葛，2014年4月17日。
- 2 「コメント」『『モジュール化する都市と社会』合評会』，早稲田大学，2014年4月19日。
- 3 （速水健朗との対談）「「なにを食べた？」で社会は変わるのか」『みちくさ市トーク』，雑司ヶ谷地域文化創造館，2014年5月18日。
- 4 “Is it Possible to Overcome Social Gap through Coproduction? ”, in Japanese Thematic Session, ISA World Congress of Sociology, パシフィコ横浜，2014年7月14日。
- 5 「みんなで決めた「安心」のかたち—ポスト3.11の「地産地消」を考える—」『柏市民大学』，柏市役所，2014年8月23日。
- 6 （小松理虔との対談）『うみラボ報告会——〇〇の歩幅で歩くいわきの海岸線』，下北沢B&B，2014年9月3日。
- 7 「「社会的分断を越える協働」のかたち？——「安全・安心の柏産柏消」円卓会議の実践経験から——」『科研費基盤（A）研究会 多面的な価値の中の

環境がバランス』, 北海道大学東京オフィス, 2014年10月19日。

- 8 「信頼回復から「応援したくなる農業」へ」『あびこ型「地産地消」推進協議会』, 2014年11月23日。
- 9 「地域に対話の場を創造する——当事者として, 社会学者として」『CoSTEP 講義』, 北海道大学, 2015年1月30日。

【メディア出演】

- 1 「放射能汚染からの漁業再生～福島・いわき市」『復興サポート』NHK総合, 2014年6月22日。

奥山 敏雄

【論文】

- 1 「死と社会——終末期医療の社会的意味」『社会学ジャーナル』第40号, 筑波大学社会学研究室, 2015年3月

樽川 典子

【論文】

- 1 「母子福祉の再構築——家族規範と中立性の原則」『社会学ジャーナル』第40号, 筑波大学社会学研究室, 2015年3月

土井 隆義

【著書】

- 1 『つながりを煽られる子どもたち—ネット依存といじめ問題を考える—』岩波書店(岩波ブックレット), 2014年6月

【論文】

- 1 「つながりに引きずられる子どもたち」『児童心理』第68巻(第9号), 79～85頁, 2014年6月
- 2 「今日の学校における暴力問題—いじめと体罰を巡って—」『教育展望』第60巻(第5号), 11～15頁, 2014年6月
- 3 「日本の青年の友人関係の特徴とその背景」内閣府政策統括官編『我が国と諸外国の若者の意識に関する調査』第3部, 134～149頁, 2014年6月
- 4 「つながり依存としてのネット依存—社会心理的背景から現状を考える—」『公衆衛生』第78巻(第7号), 479～483頁, 2014年7月
- 5 「メディアの変容—若者のケータイ・スマホ文化とキャラ的コミュニケーション—」井上俊編『現代文化を学ぶ人のために』世界思想社, 第6章, 98～111頁, 2014年8月
- 6 「つながり依存という社会病理—学校現場における人間関係の分断化といじ

め問題-」『現代の社会病理』第29号，3～18頁，2014年10月

- 7 「わたしを見て，ほくを見て！-流動化する人間関係，強まる承認願望-」『教育と医学』第63巻（第1号），68～75頁，2015年1月
- 8 「若者に広がる新しい宿命観-希望を抱かない若者の人生観とは-」『週刊金曜日』第1023号，24～25頁，2015年1月

【学会報告】

- 1 「人間関係のリスク化と嗜癖化-スマホ・SNS依存の社会背景-」日本教育工学会シンポジウム「スマホ・SNS時代の情報モラル教育」2014年6月21日，東京工業大学・大岡山キャンパス
- 2 Chair of Session No. 8432: Crime and Crime Prevention in Contemporary Japan and Former Japanese Colonies (Asian Criminological Society, 6th Annual Conference: Advancing Criminological and Criminal Justice Theories from Asia) June 28, 2014, Osaka University of Commerce, JAPAN
- 3 「若者の生活満足度を問う-状況規定のパラドクス-」日本社会病理学会第30回大会・シンポジウムの企画およびコーディネーター」2014年10月5日，下関市立大学

【その他】

- 1 「子どものスマホ依存」『北海道新聞』，7面，2014年6月13日
- 2 「『優しい関係』を超えて-他人に必要とされる経験をしよう-」『電通育英会 I K U E I NEWS』第67号，7～8頁，2014年7月20日
- 3 「関係不安からのスマホ依存」『教職研修』第42巻第12号，28～29頁，2014年8月1日
- 4 「若者たちは『いのちの電話』に何を求めるのか？-『承認の耐えられない軽さ』と向き合うために-」『茨城いのちの電話』第86号，3～4頁，2014年8月15日
- 5 「ネット社会に生きる子どもたち」『しんぶん赤旗』11面，2014年8月26日
- 6 「いじりといじめ-なぜ「りはめより100倍恐ろしい」のか？-」NPO法人子どものオンブズにいがた『2014年度講演記録』2014年8月30日
- 7 「『いいね！』が席卷するSNSの世界-不適切投稿の背景にあるもの-」『情報通信 i - N e t』第39号，2～5頁，2014年9月
- 8 「『命の教育』の落とし穴-他者への想像力欠く社会-」『北海道新聞』，9面，2014年10月3日
- 9 「読む②-ネット・リテラシー-」（遠藤美季との共著）『クロワッサン』第38巻第21号，134～137頁，2014年11月10日
- 10 「人に認められないと不安」『筑波大学新聞』第318号，3面，2014年12月8日

- 11 「学校の外につながりを」『京都新聞』洛西面，2014年12月11日
- 12 「キャラ化する人間関係－子どもに多様な居場所を－」堺市教育委員会『人権啓発冊子 しわあせをめざして手をつなごう』第49号，7～8頁，2014年12月
- 13 「つながりの新しいかたちへ」『くらしと共同』第11号，1頁，2014年12月25日
- 14 「ネット・トラブルをめぐる虚と実－関係不安からのネット依存－」『高校保健ニュース』第517号，4～5頁，2015年1月8日
- 15 「ヘイトスピーチの根－無条件の承認への憧憬－」『北海道新聞』，6面，2015年1月23日
- 16 「ネットにはまる子どもたち」『公明新聞』2015年2月4日
- 17 「ネット・トラブルをめぐる虚と実－強まる承認欲求の社会背景－」『高校保健ニュース』第518号，4～5頁，2015年2月8日
- 18 「ネット依存の虚と実」茨城県学校保健会『学校保健』第58巻第2号，6～7頁，2015年3月1日
- 19 「ネット・トラブルをめぐる虚と実－内閉化する人間関係の病理－」『高校保健ニュース』第519号，4～5頁，2015年3月8日

野上 元

【論文】

- 1 「社会学の研究対象としての「戦争」－その多様なアプローチ」『社会学論叢』(日本大学社会学会) 180号

【報告】

- 1 「地域の歴史文化を考える手引き～歴史に向き合う社会学」青森大学 ワークショップ「地域の歴史文化を考える」基調講演，2015年2月6日(金)，於・青森大学

【その他】

- 1 「武力紛争とメディア」コーナー，川崎市平和館常設展示（2014年4月1日公開）（展示企画，執筆）
- 2 「書評 長志珠絵『占領期・占領空間と戦争の記憶』（有志舎）」『日本歴史』795号（2014年8月号）
- 3 「書評 浜日出夫・有末賢・竹村英樹編『被爆者調査を読む－ヒロシマ・ナガサキの継承』（慶應義塾大学出版会）」『社会学評論』257号（65巻1号）
- 4 「書評特集 先端社会研究所叢書『戦争が生み出す社会』」第Ⅲ巻『米軍基地文化』および「総括」『関西学院大学 先端社会研究所紀要』第12号
- 5 「近現代史の社会学」光文社新書メールマガジン No.50-61

黄 順姫

【原著論文】

- 1 「同窓生と地域住民の連携による大学教育の活性化－アクションリサーチによる事例を中心に」『社会学ジャーナル』第40号, 筑波大学社会学研究室, 2015年3月

【共著・編著】

- 1 「メディアとスポーツする身体」中村俊雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則編『21世紀スポーツ大辞典』大修館書店, 2015年, 786-788頁。

【書評】

- 1 「渡辺秀樹・金鉉哲・松田茂樹・竹ノ下弘久編『勉強と居場所－学校と家族の日韓比較－』勁草書房, 2013年1-216頁に関する書評」『社会学評論』260号 (65巻4号), 2015年, 10-11頁。

【報告書・その他】

- 1 「学校教育の活性化に及ぼす同窓生と地域住民の連携力－教員だけの学校教育の限界と対策の模索－」, 日本子ども社会学会編『日本子ども社会学会第21回大会発表要旨収録』, 2014年, 98-99頁。
- 2 「学校教育が生成する子どもの身体と体罰－日本と韓国の社会的・文化的構造として－」, 「特設ラウンドテーブル, テーマ:日韓における子どもと学校教育・学校生活」日本子ども社会学会編『日本子ども社会学会第21回大会発表要旨収録』, 2014年, 130-133頁。

【国内外学会発表・研究活動】

- 1 「学校教育の活性化に及ぼす同窓生と地域住民の連携力－教員だけの学校教育の限界と対策の模索－」, 日本子ども社会学会第21回大会, 2014年6月29日, 敬愛大学。
- 2 「学校教育が生成する子どもの身体と体罰－日本と韓国の社会的・文化的構造として－」, 「特設ラウンドテーブル, テーマ:日韓における子どもと学校教育・学校生活」日本子ども社会学会第21回大会, 2014年6月29日, 敬愛大学。
- 3 (コーディネーター)「特設ラウンドテーブル, テーマ:日韓における子どもと学校教育・学校生活」, 日本子ども社会学会第21回大会, 2014年6月29日, 敬愛大学。
- 4 (コーディネーター)「男女格差を超えてグローバル共生社会へ」, 内田伸子「会話行動の性差－会話は権力の具現装置か－」, 筑波大学グローバルメンター第12回アカデミック講座, 筑波大学人文社会系リサーチグループ・筑波大学メンター会共催, 2014年6月3日, 筑波大学1C210。

- 5 (コーディネーター)「地域格差・男女格差を超えてグローバル共生社会へ」、富田和明「日本車のグローバル展開力と顧客への地域密着型サービス」、草刈緑「『つくばで働く』という選択・女性のワークスタイル」、筑波大学OB・OGメンター第13回アカデミック講座、筑波大学メンター会、筑波大学人文社会系社会連携室、筑波大学「グローバル共存・共生」のリサーチグループ・リサーチユニット共催、2014年10月21日、筑波大学1C301。
- 6 (コーディネーター)「大学・地域コミュニティ・小学校の連携によるグローバル共生社会へ」、森田泰司「小学校のICT教育と地域社会の連携によるグローバル人材の育成-大学・小学校・市教育行政の新たな協力体制の可能性を探る-」、筑波大学OBメンター第14回アカデミック講座、筑波大学メンター会、筑波大学学生メンター会、筑波大学人文社会系社会連携室、筑波大学人文社会系プロジェクト、筑波大学「グローバル共存・共生」のリサーチグループ・リサーチユニット共催、2014年10月28日、筑波大学1C210。
- 7 (コーディネーター)「コスモポリタンなローカリズムをめざす『デザイン力』による共生社会づくり」、蓮見孝「ソーシャルイノベーションとデザインシンキング」、筑波大学グローバルメンター第15回アカデミック講座、筑波大学メンター会、筑波大学学生メンター会、筑波大学人文社会系社会連携室、筑波大学人文社会系プロジェクト、筑波大学「グローバル共存・共生」のリサーチグループ・リサーチユニット共催、2014年11月6日、筑波大学1D204。
- 8 (コーディネーター)「サッカーとメディア、エンターテインメント、ジェンダー、地域社会、サポーター」、筑波大学アカデミックメンター第16回プレゼンテーション・コンテスト、及びゲストプレゼンテーション「Worldfut TSUKUBA」)、筑波大学メンター会、筑波大学学生メンター会、筑波大学人文社会系社会連携室、筑波大学人文社会系プロジェクト、筑波大学「グローバル共存・共生」のリサーチグループ・リサーチユニット共催、2014年11月29日、筑波大学1D204。
- 9 (コーディネーター)「W杯サッカーに関する語りの多様性-グローバル共存・共生社会-」、Simona Vasilache「W杯とルーマニア」Urano Edison「W杯とブラジル」Martin Pohl「W杯とドイツ」、筑波大学グローバル教員メンター第17回アカデミック講座、筑波大学メンター会、筑波大学学生メンター会、筑波大学人文社会系社会連携室、筑波大学人文社会系プロジェクト、筑波大学「グローバル共存・共生」のリサーチグループ・リサーチユニット共催、2014年11月29日、筑波大学1D204。

森 直人

【著書】

- 1 「〈教育的なるもの〉再考：『福祉国家と教育』をめぐって」広田照幸・宮寺晃夫編『教育システムと社会：その理論的検討』世織書房，2014年8月，173～189頁。

【口頭発表】

- 1 「団地居住者生活実態調査（1965年）とデータの概要」（渡邊大輔と共著）二次分析研究会2014課題公募型研究成果報告会「戦後日本社会における都市化のなかの世帯形成と階層構造の変容」，2015年3月23日，於：東京大学。
- 2 「テレビと『家族談笑』：高度成長期・団地におけるテレビ視聴」二次分析研究会2014課題公募型研究成果報告会「戦後日本社会における都市化のなかの世帯形成と階層構造の変容」，2015年3月23日，於：東京大学。

【その他】

- 1 （座談会）「『学び』は共通言語化できるか：その困難と可能性を考える」（川田学・佐藤寛子・下田浩太郎・儋田文子・森直人）『現代と保育』第90号，2014年11月，6～50頁。

穂山 新

【論文】

- 1 「近代中国の社会政策思想——柯象峰の社会救済論と社会連帯主義」『社会学ジャーナル』第40号，筑波大学社会学研究室，2015年3月

【学会報告】

- 1 「近代中国の社会連帯思想——柯象峰の「社会救済」論」第87回日本社会学会大会，一般研究報告，神戸大学六甲台第2キャンパス，2014年11月23日。

大学院生(社会科学専攻, 国際公共政策専攻)業績一覧(2014年度)

○秋本光陽

【学会報告】

- ・「少年法における『保護者』規定——『責任者としての地位』との実践的結合——」犯罪社会学会第41回大会, 京都産業大学, 2014年10月18日.

○石川千穂

【論文】

- ・「『社会』をめぐる話法としての対抗文化—日本のロック雑誌の変遷から—」『年報社会学論集』27:13-24.

○大嶋尚史

【論文】

- ・「子どもの『守れない安全』を守ることの意味——パトロールによって『顔見知り』を作る意義とは何か」『社会学ジャーナル』第40号, 筑波大学社会学研究室, 2015年3月

【学会報告】

- ・「子どもの防犯」はどのように語られてきたのか」日本子ども社会学会第21回大会, 一般部会「子どもと言説」敬愛大学, 2014年6月28日

○岡村逸郎

【論文】

- ・「犯罪被害者救済の言説の地平はいかにしてきりひらかれたのか——〈社会保険〉がつくりあげた, 大谷実の実践について」『年報社会学論集』27:25-36.

【学会報告】

- ・「犯罪被害者支援にかんする歴史社会学的考察」日本犯罪社会学会第41回大会, 京都産業大学, 2014年10月18日.

【研究ノート】

- ・「犯罪被害者支援の歴史社会学に向けて——先行研究と分析視角の検討を中心に」『社会学ジャーナル』第40号, 筑波大学社会学研究室, 2015年3月

○川村智樹

【学会報告】

- ・「DV をめぐる知識の社会学的研究 —— 新聞記事の分析を中心に」日本社会学会第87回大会，自由報告，神戸大学，2014年11月23日。

【研究ノート】

- ・「暴力にさらされて育つ男性をとらえる方法論的視座 —— DV をめぐる先行研究の批判的検討をつうじて」『社会学ジャーナル』第40号，筑波大学社会学研究室，2015年3月

○楠田恵美

【論文】

- ・「現代日本橋の表象分析 —— 空の都」『社会学ジャーナル』第40号，筑波大学社会学研究室，2015年3月

○後藤美緒

【博士論文】

- ・『東京帝大新人会と戦後日本 —— 知識人のライフコース的研究』 筑波大学博士（社会学）学位論文，2015年3月

【論文】

- ・「戦間期日本における『社会医学』の理念と『社会事業』の構想 —— 東京帝大セツルメントの活動を通して」『年報社会学論集』27：61-72。

○川山竜二

【学会報告】

- ・「N・ルーマンの反省理論と科学システム 機能システムの内部構造論に向けて」日本社会学会第87回大会，神戸大学，2014年11月。

○高橋康史

【論文】

- ・「家族が罪を犯したことによる主観的認識と社会関係の変化—『地域』との関係性に注目して」『社会福祉学』55（1）：49-62。

【学会報告】

- ・「犯罪者を家族にもつ人々がおこなう状況改善の試み—沈黙からの脱却と異質性の受け入れ」日本社会病理学会第30回大会，自由報告，下関市立大学，2014年10月4日

- ・「家族が罪を犯すことによる日常生活の変容—スティグマの内在化と情報の管理／操作」日本社会学会第87回大会，自由報告，神戸大学，2014年11月22日．

【その他】

- ・「触法高齢者・障がい者への地域生活支援を考える—司法と福祉の連携のなかで（インタビュー記事）」『大阪の福祉を知るみんなの情報誌ウエルおおさか』90：3－4．

○永田大輔

【論文】

- ・「コンテンツ消費における「オタク文化の独自性」の形成過程—一九八〇年代におけるビデオテープのコマ送り・編集をめぐる語りから」『ソシオロジ』182号 p. p21－37

【学会報告】

- ・「オタクをめぐる文体と人称表現—1980／90年代における批評の当事者性と客観性」関東社会学会 2014年6月

【研究会報告】

- ・「『オタク』集団イメージの社会的形成をめぐる」第107回非行問題研究会2014年4月19日東京大学教育学部棟359教室

【連載】

- ・「ライトノベルそむりえによる一冊」河合塾ウェブサイトみらいぶ